

★ 操 作 方 法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。

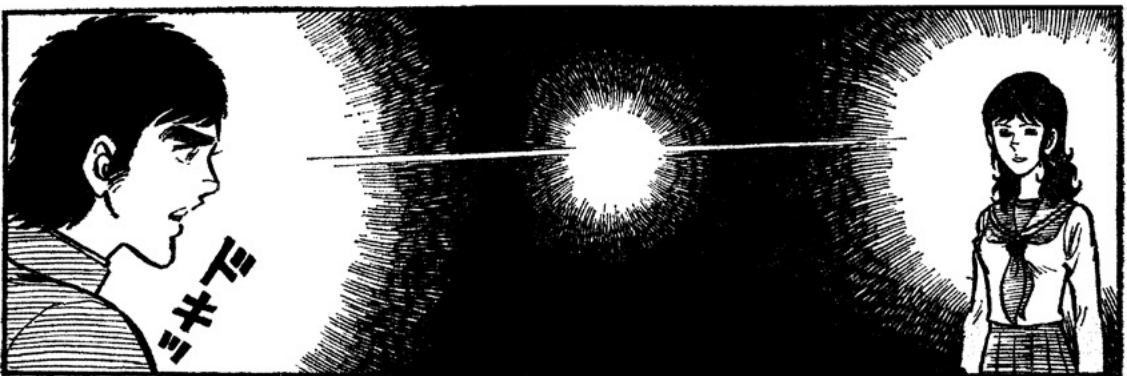
新連載 (第1回)

め 光る眼の少女

美しい眼をした転校生。その時
から不思議な事件が続々発生した。
彼女はいったい何者なのか。

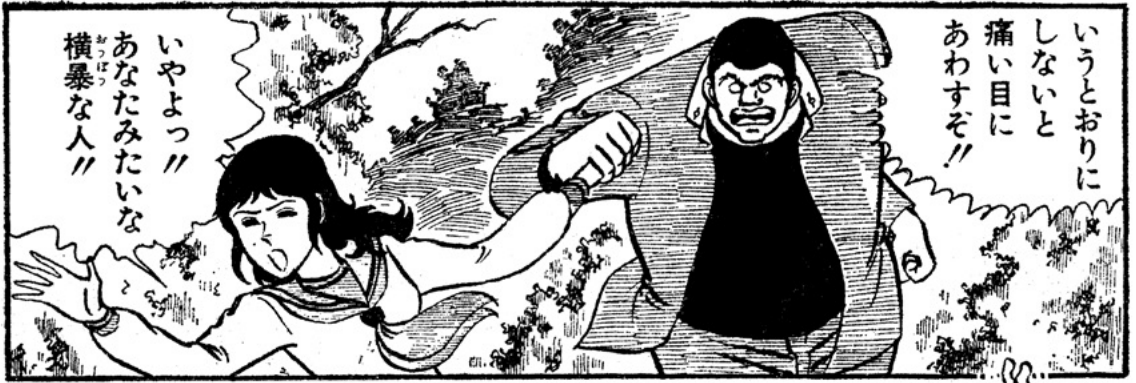
かたおか徹治





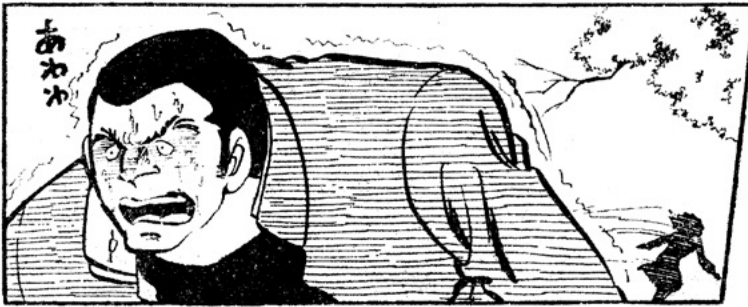


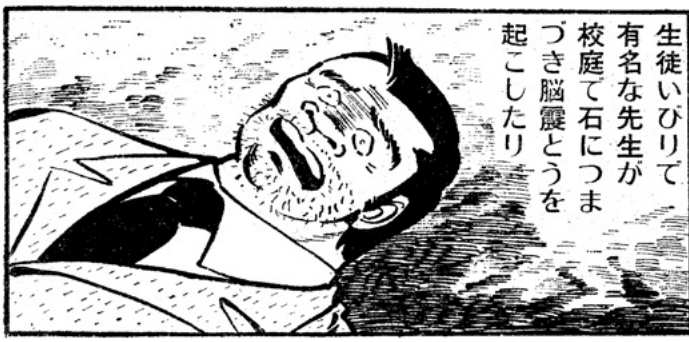


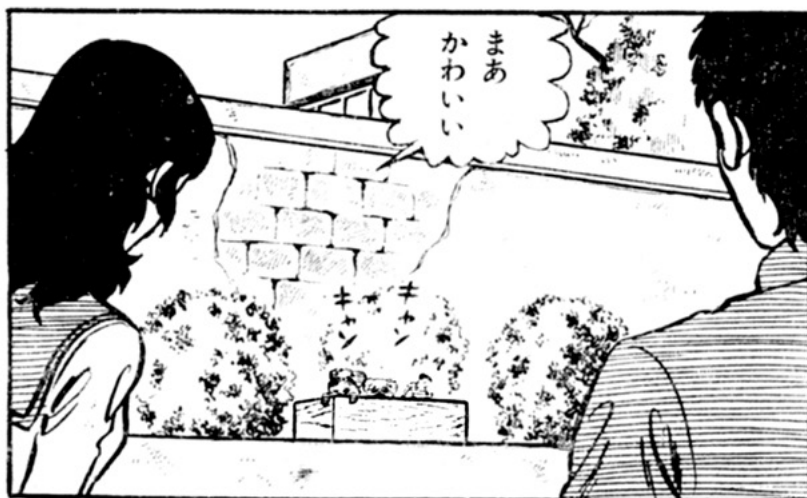




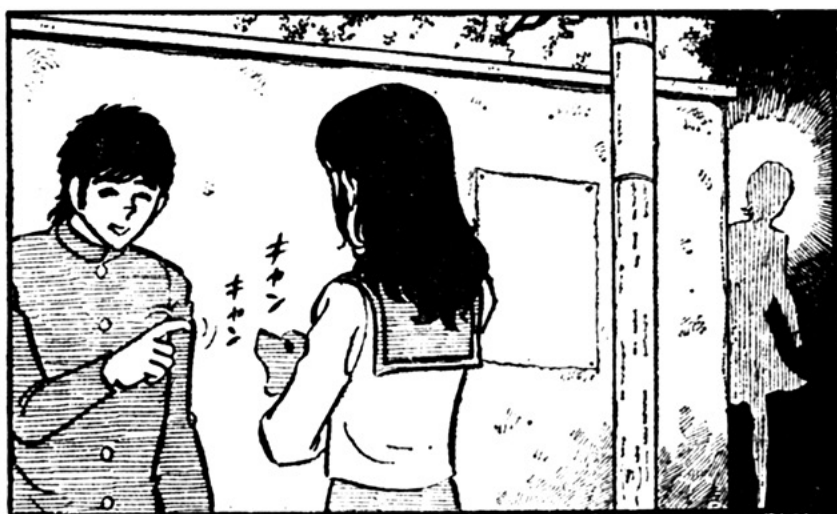
ギヤ
ギヤ
ギヤ





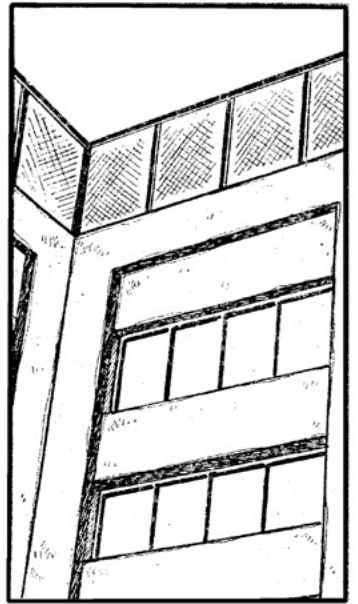








あっ



!?



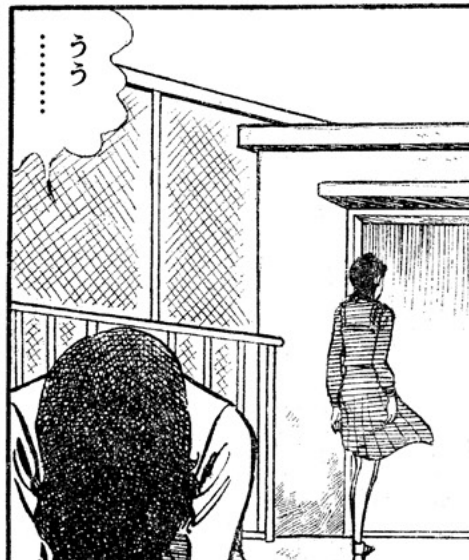
宙さんから
手をひくのよ

こんな目に
二度とあい
たくなければ
宙さんには
近づかない
ことね



ん?

!! 大島さん



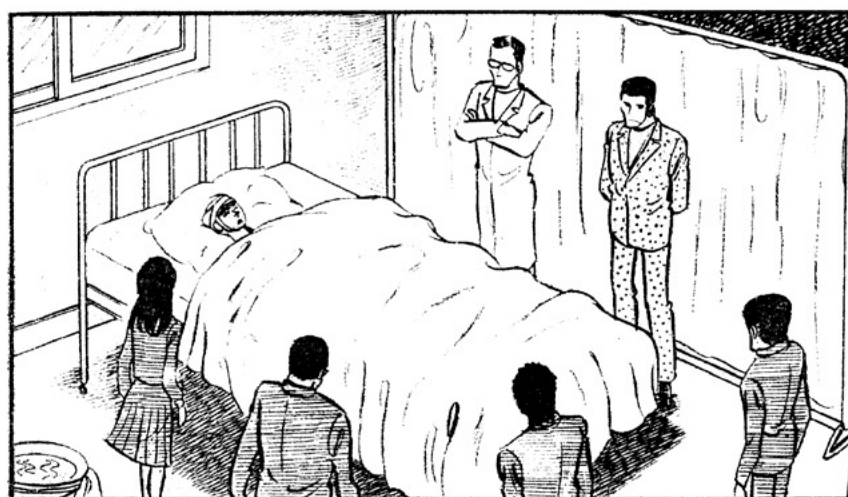
うう
……



な：
何なんだ
いまの
悲鳴はっ!?

どうした
の!?

お
屋上から
だ~~~~っ!!!



どいた
どいたア
~~~~っ!!!

邪魔だ!!  
ウロウロ  
するなっ!!!

先生!!  
ケガ人だ  
早く治療を!!!



あ：  
悪魔……

魔女：  
魔女だア  
~~~~っ!!!

あわア~~~~
~~~~っ!!!

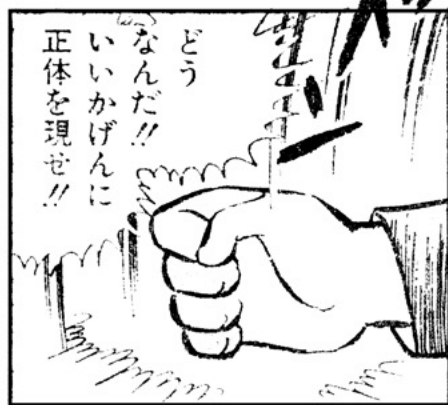
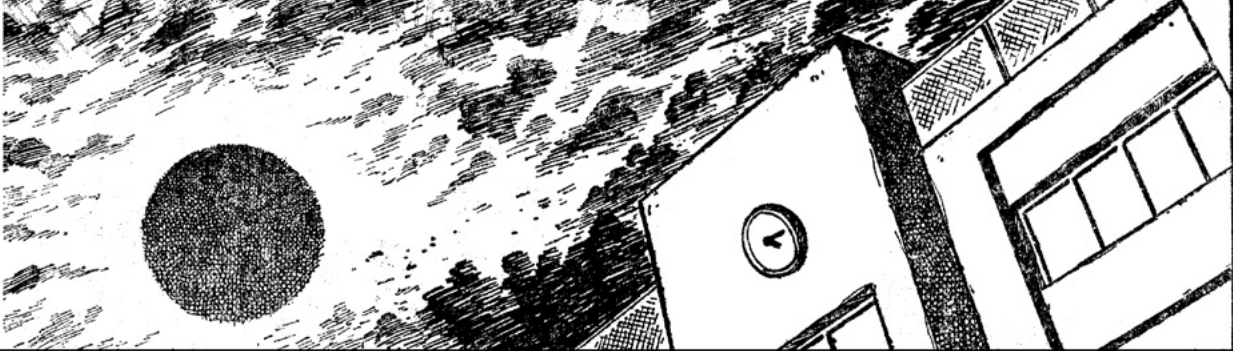


うう……  
おおっ!!  
気がついた  
ぞっ!!!



医務室







# 『光る眼の少女』始末記 かたおか徹治

①



『光る眼の少女』…。

1980年『中三時代』（11月号～翌3月号／全5回）に掲載された、『SFホラーファンタジー』作品です。

この作品のルーツは、お蔵入りになっていた全24ページの読切でした。

この作品の誕生秘話を5回に分けて書いてみたいと思います。

『中三時代』の連載が始まった1980年からさかのぼる事4年ほど前の話です。

1976年に旺文社『中二時代』元編集の『手塚番』（手塚プロに付きっきりで常駐する編集者）だったNさんから、「漫画の神様・手塚治虫先生の手塚プロの原稿が同誌で『落ちる』かもしれないので、急遽24ページで読切を」との依頼が入り、打ち合わせから仕上げまで1週間ほどという、それまでに体験した事のないハードスケジュールで完成させたのが、読み切り版、全24ページの『光る眼の少女』だったのです。

当時、『スタジオMIC』というグループを仲間内で立ち上げ、『小学館学年誌』や当時都内中野にあった『栄光社』（前出のNさんからの紹介です）のテレビ絵本のイラストや『三菱ふそう』の企画漫画などを中心にプロダクション形式で細々と、でも外向きには大々的に活動していました…^\_^;

そんな中で突然入ってきた仕事で、無理じゃないかとスタッフから反対もありましたが、若かったんでしょうね、ここぞチャンスと「寝ないでやれば出来る」と言って受けてしまいました…^\_^;

しかし結果、神様は何とか入稿出来、私の作品は残念ながらお蔵入りになってしまいました。

それが何故、陽の目を見たのか？ それは次回で…(^\_^);。